

---

## 尾の大部分を欠損したハイについて

福家 悠介

Notes on a tail-lost specimen  
of *Sinomicrurus japonicus boettgeri*

By Yusuke Fuke

---

### はじめに

ハイ *Sinomicrurus japonicus boettgeri* はヒヤンの亜種で、徳之島と沖縄諸島に生息する小型のコブラ科のヘビである (Kaito et al., 2017). 本種はヒトに触れられた際に、尾を巻く行動や巻いた尾を立て上下左右に振る対捕食者行動と思われる反応をすることが知られている (Fuke, in press). また、ヒトに掴まれると、尖っている尾の先端部を押し付けるような行動を示す (鳥羽, 2005). しかし、種ヒヤンの捕食者は知られておらず、これらの行動が自然下でどのような働きをするのかは不明である. 今回、尾の大部分が欠損しているハイを発見したので報告する.

### 試供標本

ハイ *Sinomicrurus japonicus boettgeri* (Fritze, 1894) (図 1)

標本番号 : KUZ-R73060

採集日 : 2016 年 12 月 22 日 00:10

採集場所 : 沖縄県大宜味村喜如嘉

採集者 : 福家悠介

性別 : メス

測定値 : 頭胴長 405 mm, 尾長 8 mm (いずれも固定後に測定した)

### 観察結果と考察

本個体は林内のリター層を活動している状態で発見された. 生時の本個体を手で掴むと、尾の先端を手に押し当てるような行動を取った. 尾の先端部は丸まっており、強い刺激は感じなかった. 尾を巻く行動は確認でき

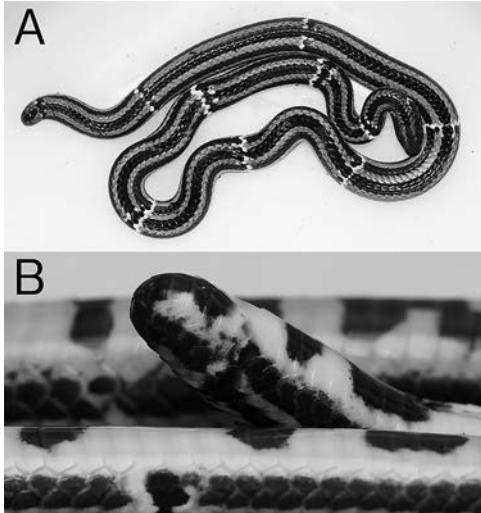


図1. 尾の大部分を欠損したハイ *Sinomicrurus japonicus boettgeri* (KUZ-R73060). A, 生時の状態; B, 固定後の尾部。

Fig. 1. Hai coral snake, *Sinomicrurus japonicus boettgeri*, that lost the most part of the tail (KUZ-R73060). A, Dorsal view of live condition; B, Lateral view of the tail after preservation.

なかった。

本個体の尾長は8 mmで、太さは胴部よりわずかに細かった(図1A)。尾の先端部は半球状に丸まっていた(図1B)。鱗は先端部まで欠けることなく存在していた。尾下板は7対であった。先端部の鱗は2分していなかったため尾下板には含めなかった。背側中央の黒色縦条は尾の先端部まで到達していた。橙色の縦条は胴部では体鱗1枚の太さで、総排出腔付近で黒色横線によって途切れていた。その後、橙色縦条は体鱗2枚分の太さになり、先細りながら尾部の中央付近まで到達していた。橙色は尾部でより鮮やかであった。なお、橙色は固定によって消失した。尾の欠損を除き外傷は認められなかった。

### 考 察

Kaito et al. (2017) で用いられたハイ44個体の頭胴長と尾長の測定データを参照すると、頭胴長405 mmの個体における予想され

る尾長は40.1 mmであった。つまり、本個体は尾の約8割を失ったと予想された。一般的にヘビ類における尾の損傷はよく見られるが、本種に関しては初の報告であると思われる。一部のヘビ類において尾の損傷率は捕食リスクによって変動することが知られているが(Santos, 2011), 本個体の尾の欠損が奇形などの先天的なものか、外的要因による後天的なものかは不明である。これが外的要因による欠損であった場合、本種の尾を用いる防衛行動との関連が疑われる。本種と同所的に生息し、捕食者となり得る生物は、別亜種でヘビ類の捕食例があるリュウキュウイノシシ *Sus scrofa riukiuanus* (木場他, 2009) や鳥類, ハブ *Protobothrops flavoviridis* やアカマタ *Dinodon semicarinatum*, ハイなどの餌資源としてヘビ類を利用する爬虫類が考えられる。今回のような尾の欠損はヘビ類のように丸呑み型の捕食をする生物によるものとは考えにくく、リュウキュウイノシシなどの哺乳類や鳥類によるものと推測される。本種の生態を明らかにするために、捕食者や行動パターンに関するさらなる知見の蓄積が望まれる。

### 謝 辞

琉球大学の皆藤琢磨氏(現、環境省那覇自然環境事務所)には標本調査に関して大変お世話になった。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

### 引用文献

- Fuke, Y. *SINOMICRURUS JAPONICUS BOETTGERI* (Hai coral snake). DEFENSIVE BEHAVIOR. Herpetological Review. (in press)
- Kaito, T., H. Ota, and M. Toda. 2017. The evolutionary history and taxonomic reevaluation of the Japanese coral snake, *Sinomicrurus japonicus* (Serpentes, Elapidae), endemic to the Ryukyu Archipelago, Japan, by use of molecular and morphological analyses. *J. zool. Syst. Evol. Res.* 55(2): 156–166.
- 木場有紀・坂口実香・村岡里香・小櫃剛人・谷田創. 2009. 広島県呉市上蒲刈島におけるイノシ

シの食性. 哺乳類科学 49(2) : 207-215.

Santos, X., M. Feriche, R. León, A. Filippakopoulou, M. Vidal-García, G. A. Llorente, and J. M. Pleguezuelos. 2011. Tail breakage frequency as an indicator of predation risk for the aquatic snake *Natrix maura*. *Amphibia-Reptilia* 32: 375-383.

鳥羽通久. 1996. ペニヘビ類. p. 104. 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏(編) 日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社, 東京.

(606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科)